

うけ難き人身をうけ而も大乘相應の地日本に生れ、而も何の縁やら此の日蓮上人の御みもとはべる事を得、而して斯く佛敎をながめた時唯々感激の外はない。正に我々こそ世界の人々

を指導すべき「エリト」である。我々は眞に此の自覺に生きなければならぬ。諸君よ!! 共に勵まうではないか。此の大理想實現の爲に。

爆 進

須 磨 辨 能

風雨の中を傘無しで急ぐ人々が有る。彼等の行き着こうとする目的地は或はそれ、異なるかも知れない。併し乍ら各のもつ唯一つの目的地に向つて彼等は、びしょ濡れになり乍らも其れにひるまないで、前方へへと一歩でも前進するのである。勿論中には落伍して曠野の中に僅かな疎林を求めて、雨宿りしようとする者が出るかも知れない。併し彼等は果してそれによつて身を防ぎ得るで有らうか? 憩ひは却て彼等の骨髄に迄、雨をしみ通らせる事になりはしないだらうか! 此の平凡な譬喩は歴史的危機に直面して、あくまで生き貫こうとする人生の姿を象徴してゐると言へるで有りませう。人生は苦難で有る。日毎の闘争である。現在迄我等の周圍には重苦しい空氣が―老衰した米英の―鈍重な汚れた雰圍氣の中に、癡痺し切つた歐洲の

威嚴も權威もない」唯物思想や自由主義が―我が帝國や我等個人の思想行動を妨害しつゝ有つたのであります。これを打破すべき、正義の闘争が大東亞戦争の一大スコールなのであります。どうせ濡れるならば身を寄せ合ひ、高山の雨中での如く、互ひに体温を以て体温を持ちつゝ一團となつて一人の落伍者も無い様に勵まし合ひ、行ける所まで行くのが最も賢明な方法ではないでせうか。幾百萬の動員と十餘萬の英靈と、四百幾十億を越へる戦費と、五年有餘の歳月を要しつゝ有る今次の聖戦は、我等一億の民の上に、ふりそゝがれた、一大試練である。而して未だ米英は、舊体依然たる思想と、豊富なる物資をのみ頼みて、我等に挑戦し來り、我等國民は百年戦争の覺悟と、萬全の準備とを以て、之れを撃滅しあくまで聖戦の目的を完遂しなけ

ればならないのであります。此の歴史的危機を打開し新らしき、世界を創造する爲には、この前進の段階として先づ、我等國民の結束に信頼するの外はないのであります。故に我祖日蓮大聖人は、立正安國の大義を叫ばれ「國亡び人滅せば、佛を誰か崇むべき、法をば誰か信ずべけんや、先づ國家を祈りて、須く佛法を立つべし」と、國法の尊重と、國の存亡の重大性を力説せられたと同時に、異體同心鈔に於ては「異體同心」の結束こそ立正安國の實行なる事を説かれたのではないか。見よ三千年の昔アレキサンダー大帝、マケドニヤの小國を以て、次々にギリシヤ諸國を屠りしものは、もとより大帝の偉大性に基づくものなりと雖も、其の成功の最大の原因は、アテネスバルタ、テーベコリント等の内紛と勢力争ひに終始した結束力の缺乏に起因せるものではなかつたでせうか。此處に宗教の時代的要請が存するのであります。今更に家族制度の國家たる日本に於ては其の組織單位たる家庭に於て其の例を見るも然り。私は嘗て久留米在住中、或時恩師と共に久留米少年刑務所の中で正に死に瀕した最後の言葉を聞いた事があります。囚人のベッドの上で正に息絶へんとする十七八歳の美少年は我等に何を物語つたでありますせうか。「教師様、僕にやさしい一人の父、一人の母があつたなら、僕は此の少年刑務所の冷たいベッドの上で死んで行かずにすんだものをなあ」此の言葉は何を意味してゐるでありませうか？ 家庭の不和が、家の不結束が如何に社會の害毒た

るかを雄辯に物語つて居るではないか。故に軍人勸諭には、「一致の和諧を失ひたらんには、常に軍隊の毒毒たるのみかは、國家の爲にもゆるし難き罪人なるべし」と宣ひ、又宣戰の御詔勅には

「億兆一心、國家の總力を擧げて、聖戰の目的を達成するに遺算なからむ事を期せよ」と明示されたのであります。

而して更に深く掘下げて、此の結束帶の個體であり、國家の細胞とも、原子とも言ふべき個人、又更に更に深く、個人を原子と見るならば、其の個人の肉體を中心として、創造され、常に周圍を廻る個人の思想、理念、即ち宗教、倫理、道德、科學等の如き、歴史的智識を軌道として廻轉する思想、理念は電子等に相等するものである。此の個人と國家との關係、又電子にも相當する個人の思想理念と、國家との關係に付き言及するならば、生きた人間、即ち思想と意志とを持つ集合體より形成せられる國家、又この國家より、生れ出ずる歴史は、又此の個體である。我等の理念、我々の設計圖のまゝに「新らしい秩序、新らしい構成」は必ずしも成り得ないかも知れないが、又我々個人の思想理念とは、全々無關係に形成されるものでも無いのであります。やはり國家の進路、歴史の進展は、國民各自の思想、理念に導びかれざるを得ないのであります。其の理念は我々の思想、智識と意志の力による創造力であり、我等創造者の意欲であり、情熱であります。此處で用ひた創造者の語は必ず

しも天才を意味する物でも無く、亦平均以上の人々だけが専有し得る言語ではなく、歴史的形成に參與しようとする個人は總て創造者であります。此處に皇道の八紘精神が燦として照り輝くのであります。然し具象的政治行爲や藝術作品を残して居乍らも、創造者とは言へない人があるかも知れません。何故なら其の仕事は必ずしも形式的、統一的ではない爲である。此れに反し外見には何ら卓越せる生活を營んで居ない人でも、眞に創造者たる人がある。其の生活は集團的又は歴史的運命に結び附いて居るからである。故に私が考へ且つ言はんと欲する歴史を造る人間とは、平凡な人間と一致する仕事をして居ながら其處に特別な自覺を持つものに外ならないのである。故に我祖は「官仕へを法華經とおぼしめせ」と説かれ且又「穢土と淨土と土に二ツのへだて無く迷へるを衆生、悟れるを佛と名く」と、文永弘安の國難に際し、明瞭に正しき理念、正しき自覺こそ聖戰根源たる事を力説せられたのであります。故に其の職場で日常的仕事を忠實に守るだけで職城奉公の實を擧げて居ると自負するやうな安易な考へ方は克服さるべきであります。眞の職城奉公とは聖業を自覺する事にあると、私は考へるのであります。一本のネヂを造る熟練工も、アメリカ人なら「それは營利の爲に」と考へるではありません。故に價格によつては如何なる粗品を濫造するもそれは彼等の思想からすれば正しい事なのであります。然し日本人に於ては如何に價格は安價でも「此の一

本のネヂ」があつた空中戦闘に於て死闘を續ける飛行機の翼をしつかと止める「ネヂ」である事を考へる時將又北海の波濤を蹴り敵の魚形水雷を物ともせず圓ふ軍艦や潜水艦の鐵板と鐵板とを固着せしめる「一本のネヂ」である事を自覺する時、何んと我が職場の偉大さに驚嘆するの外はないではありませんか。私は思想や力によつて優つた人々を英雄とは呼ばない。私が崇敬する人物は心靈によつて偉大である人のみであります。故に換言し結語すれば、我々は其の視野を無限に擴大し狭い職城意識を脱して全体的國民的意識にまで高めねばならぬのであります。前線の將兵と同じ心でと言ふ言葉形容詞で終らしめずに「御民我れ生ける膽しあり、天地の榮ゆる時にあへらく思へば」の感激は、今日一億蒼生の感懐に通じるものがある。殊に學窓に勉學する我等青少年學徒の共鳴される心境であります。之の皇恩に感謝しつゝ直に銃後が前線である事實を、創造的行爲を通して自證しなければならぬのである。祖國日本は歴史を踏して日々夜々に歴史を形成して居る。頭の中の構想を可能から實現に向はしめる事こそ我等青少年學徒に與へられたる任務であると同く、信ずるものであります。嗚呼！諸君見よ「飛行機が行く、爆彈が行く、破壊に行く」烈しい暴風雨の中に何か々待つて居る。其の未知の物に向つて此の若き力と、火の如き熱血とを以て、來るべき新興日本の建設者の一員となり新文化創造者の一員となり得るのであります。